

第15回 GMOフリーゾーン全国交流集会 in 滋賀

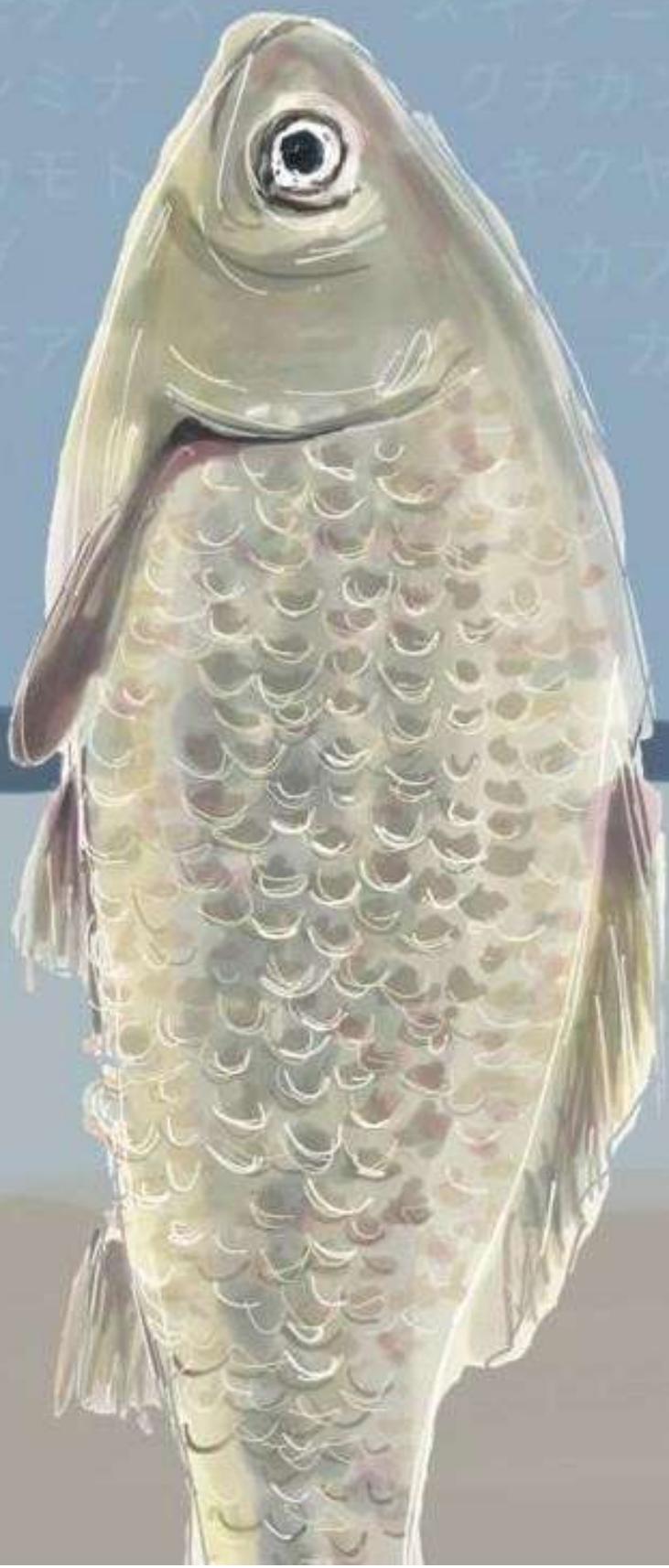
琵琶湖から発信

—遺伝子組み換えもゲノム編集もいない—

日時:2021年3月19日(金)
13:30~17:00

会場:大津市民会館

主催:第15回GMOフリーゾーン
全国交流集会 in 滋賀実行委員会



目次

実行委員長 歓迎の挨拶	… 1
プログラム	… 2
基調講演	… 3
『いま、遺伝子操作食品の世界で何が起きているか？』	
講師:天笠啓祐（遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン代表）	
地域の生産者報告『滋賀で輝く！多様な「農」のかたちとこれから	
特別提言 嘉田由紀子（参議院議員、前滋賀県知事）	
生産者報告 石津 大輔（針江のんきいふあーむ）	… 7
中道 唯幸（中道農園）	… 9
水口ファーム	…10
山本 嘉紀（秀明自然農法ネットワーク）	…12
武村 幸奈（株式会社はたけのみかた）	…14
GMO フリーゾーン 2019、2020 年度報告	…20
GMO フリーゾーン運動団体報告	
・ グリーンコープ共同体	…23
・ 生活クラブ連合会	…26
・ あいコープみやぎ	…28
・ コープ自然派事業連合	…30
・	
GMO フリーゾーン国際活動メッセージ	…33
・ ドイツ、EU、台湾、韓国	
集会宣言	…35
協賛協力団体様一覧	…36
賛同団体からのメッセージ	…37
実行委員会紹介	…38

歓迎の挨拶

第15回 GMO フリーゾーン全国交流集会 in 滋賀
実行委員長 石津大輔(針江のんきいふあーむ)

本日は GMO フリーゾーン全国集会 in 滋賀にご参加いただき、誠にありがとうございました。

昨年2月、開催中止の決断をしたときには、新型コロナウイルスの影響が本年まで続いていることは想像もしておりませんでした。

私自身もこの一年、オンライン会議をはじめ、仕事や人との関わり、日々の生活が大きく変化し、必死に対応してまいりましたが、春に蒔いた稲穂は、何も変わることなく季節とともに成長し、秋には黄金の実りをもたらしてくれました。急激に社会生活が変わっていく中、普段は気づくことのできなかつた、変わらないことに安堵と幸せを感じるという、貴重な体験をした一年でありました。

その様な、未だ平常時とは言い難い状況が続く中にありながら、昨年12月、ゲノム編集トマトの厚生労働省への届出が受理されるといった衝撃のニュースを目にしました。ゲノム編集作物の栽培は、使用中止で被害の広がりを抑制できた水銀農薬やアスベストなどとは異なり、自然界の中で一度広がれば後戻りできない、未来のリスクの始まりである事を大変危惧しています。

2005年、滋賀で産声を上げ、全国での開催を重ねる度に大きく広がった「GMO フリーゾーン宣言」。ゲノム編集野菜の国内での栽培が始まる、新たな区切りとなるこの2021年に、もう一度開催できましたことを心からうれしく思います。

今回、皆様と一緒に、天笠さんや世界の皆様からいただく学びに加え、明るい未来を感じることのできる、滋賀で精力的に活躍されている様々な農家さんたちの活動発表を予定しています。現状に悲観するだけではなく、皆様の力となり、明るい未来が望める、濃い時間を過ごしていただければと思います。

本来であれば皆様と顔を合わせ、この滋賀で、日本一の琵琶湖を望みながら全国集会を開催し、翌日は都道府県魅力度ランキングワースト10の常連である滋賀県の印象を覆す、県内の名所や生産者の現場をたっぷりご案内させていただき、滋賀県のファンになってからお帰りいただく予定をしていたため、心残りはないとは言えませんが、また新型コロナウイルスが落ち着きましたら、ぜひ滋賀県にお越しいただき、訪ねていただければと思います。

最後になりましたが、2年という長期間にわたって、また初めてのオンライン開催といった不安の尽きない中、ご尽力くださいました実行委員会の皆様に心よりお礼申し上げます。

プログラム

- ≪第1部≫ 司会 上野恵美(コープ自然派おおさか)
- 13:30 開会挨拶 実行委員長 石津大輔(針江のんきいふあーむ)
来賓紹介
- 13:35 基調講演『いま、遺伝子操作食品の世界で何が起きているか?』
講師 天笠啓祐 (遺伝子組み換え食品いらない! キャンペーン代表)
- 14:18 休憩 (7分)
- 14:25 滋賀で輝く! 多様な「農」のかたちとこれから
特別提言 嘉田由紀子 (参議院議員、前滋賀県知事)
生産者報告 石津大輔 (針江のんきいふあーむ)
中道唯幸 (中道農園)
水口ファーム
山本嘉紀 (秀明自然農法ネットワーク)
武村幸奈 (株式会社はたけのみかた)
- 15:25 休憩 (10分)
- ≪第2部≫
- 15:35 GMO フリーゾーン2019年度、2020年度報告
瀬瀬美千世 (遺伝子組み換え食品いらない! キャンペーン)
- 15:40 GMO フリーゾーン運動国内団体報告
・グリーンコープ共同体 佐々木春代
・生活クラブ連合会 増田和美
・あいコープみやぎ 辻朗子
・コープ自然派事業連合 清水直子
- 16:40 GMO フリーゾーン国際活動メッセージ EU・ドイツ・台湾・韓国
- 16:50 大会宣言 坂本真有美 (コープ自然派京都)
バトンの受け渡し 石津大輔 (針江のんきいふあーむ)
閉会挨拶 小林一雅 (秀明自然農法ネットワーク)
- 17:00 交流集会終了

いま、遺伝子操作食品の世界で何が起きているか？

天笠啓祐(遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン)

米国で遺伝子組み換え鮭に続いて豚が承認される

2020年12月14日、米国食品医薬品局(FDA)が、遺伝子組み換えでアレルギーを引き起こす物質ができないようにした豚を承認したと発表しました。FDAは、このGM豚肉についてアレルギーをもつ人が食べても安全だと述べています。アレルギー反応は、動物の細胞の表面にある「アルファ・ガル」という糖類によって引き起こされるとして、それができないようにしたもので、この豚は臓器移植にも応用することができるとしています。ハーン FDA 長官は「動物バイオテクノロジー応用製品が、食用ならびに医学利用の両方の用途で初めて承認されたことは、画期的だ」と述べています。このGM豚の名前は「ガルセーフ」、ユナイテッド・セラピューティクス社の子会社リビビコール社が開発したものです。

現在、米国で承認されているGM動物は、成長を早めた鮭に、このアレルギーが起き難い豚が加わり2種類になりましたが、先行した鮭に関しては、すでに2015年に販売が認められましたが、表示制度が確立していなかったことから流通はできませんでした。2019年にGM食品表示制度ができたことで障害がなくなり、いよいよGM鮭の流通が始まろうとしていました。この動きに対して消費者団体などは、全米中の大手スーパーなどに働きかけて、GM鮭を扱わないように求めてきており、それに応じて、ウォルマート、コストコ、クローガー、ホールフード、マイヤー、ターゲット社など、大手企業がことごとく扱わないことを決めました。それと同時に消費者団体などは訴訟を起こしました。2020年11月5日、米国カリフォルニア州北部地域の連邦地方裁判所でその判決が下されました。同判決では、FDAがGM鮭の養殖や流通を承認したのは連邦環境政策法に違反するという判決を下しました。それによるとGM鮭が逃げ出した場合、野生の鮭にどのような影響を与えるかの評価が不十分であり、さらに詳しく分析し、評価しなければならないとしたのです。そのためGM鮭が流通しているのは、現在はカナダだけです。

米国では、トランプ政権からバイデン政権と変わりましたが、いっそうバイテク推進に向けた動きが加速しそうです。その理由は、オバマ政権時に8年間も農務庁長官だった元アイオワ州知事トム・ヴィルサックの再登板です。この人物は1997年から2007年までアイオワ州知事を務め、知事時代に同州を一大GM作物生産地にしたことで、米国最大のバイテク推進団体バイオテクノロジー産業協会から2度も「バイテク産業に最も貢献した知事」として表彰され、「モンサントの友人」といわれた人物です。これまでトランプ政権に顕著な動きが見られなかったGM作物やゲノム編集作物が、推進に転じることになることは必至と見られていますとくにゲノム編集作物や食品の動きには目が離せません。

世界で規制が進むグリホサートをめぐる状況

除草剤ラウンドアップと、その主成分のグリホサートが、いま世界的に禁止を含む、規制の流

れが強まっています。この除草剤は、遺伝子組み換え作物の栽培拡大にともない、使用量を爆発的に増やしてきましたが、それに伴いさまざまな健康障害も拡大してきました。規制の動きをもたらしたきっかけは、IARC(国際がん研究機関)によって「発がん物質」として認められたことにあります。米国では訴訟が広がり、相次いで被告のバイエル社(モンサント社を買収したため、その裁判も受け継ぐ)敗訴となっています。欧州では、ドイツ政府などすでに禁止を決定している国も含めて、禁止や規制が拡大し、2024年の再承認はもはやあり得ない状況になっています。

このところグリホサートがもたらす健康被害は、発がん性だけでなく、さまざまな分野で明らかになっており、発達障害など子どもたちへの影響、妊娠や出産への影響、さらには世代を超えて受け継がれる悪影響などが明らかになっています。

にもかかわらずグリホサートの使用は、遺伝子組み換え作物以外でも、いま北米産小麦などで「プレハーベスト農薬」として用いられ、日本でも、それを輸入して作られているパンなどの食品から高い濃度で検出されています。このような現状にもかかわらず、日本政府は、グリホサートの残留基準を緩和するなど、世界が向かう方向とは反対の動きを見せています。

ゲノム編集トマトの無償配布が始まる

昨年12月11日、日本で最初のゲノム編集食品として、筑波大学が開発したGABA高蓄積トマト「シシリアンルージュ・ハイギャバ」の市場流通が可能になりました。この日、同大学発のベンチャー企業サナテックシード社によって、このトマトの商品化に必要な手続きである、農水省への情報提供と届け出、厚労省への届け出が行われ、受理されたのです。

これにより、このゲノム編集トマトは、環境影響評価や食品や飼料としての安全審査も必要ないため、このまま流通が可能になり、表示もないまま私たちの食卓に登場することが現実になりました。このトマトを開発したのは筑波大学教授の江面浩。これまで市場に登場したゲノム編集作物は、世界的にも米国でカリクスト社が開発した高オレイン酸大豆だけでしたが、これに日本で開発されたゲノム編集食品が加わり、しかもこの日本の市場に出回る可能性が強まったのです。

このゲノム編集トマトは、人間の血圧の上昇を抑える働きがあるといわれている物質「GABA」を多く含むようにゲノム編集したものです。このトマトは、アグロバクテリウムをベクター(遺伝子をトマトの細胞に導入するもの)に用いています。そのアグロバクテリウムのプラスミド(核外遺伝子)にDNAを切断するCas9遺伝子を挿入し、さらにマーカー遺伝子として抗生物質耐性遺伝子を挿入、さらに遺伝子を起動させるカリフラワーモザイクウイルス遺伝子を加えて、それをカセットにして用いています。これは遺伝子組み換え技術そのものです。

しかし、厚労省の審議会は「ゲノム編集は遺伝子組み換えと異なる」として安全審査を求めませんでした。ゲノム編集技術の問題点として指摘されてきた、目的以外のDNAを切断してしまうオフターゲットについては、ごく一部しか調べられておらず、またエピジェネティックな変異についても調べられていません。安全性は確認されたとはとても言い難いものです。食品表示もないため、消費者は選ぶことができません。

ドイツの科学者団体は、このトマトについて、GABAは植物が持つさまざまな機能で、重要な

役割を果たしており、そこへの遺伝的介入は、植物の代謝に影響し、そこで起きる変化は、環境からのストレスに予想外の反応を示す可能性があるかもしれない。そのことは食品としての安全性にも影響があるかもしれない。このトマトの開発では、リスクの調査が行われておらず、苗を配布したり販売することがとても許される段階にはない、と指摘しました。

ゲノム編集魚が間もなく承認される？

厚労省の審議会が肉厚マダイ承認に向けた動きを見せています。2021年2月10日、日本で遺伝子組み換え食品やゲノム編集食品の承認を事実上決めている、厚労省の食品衛生審議会の専門調査会が、「ゲノム編集技術を利用して得られた魚類」の扱いについて審議を開始しました。これは京都大学や近畿大学が開発した「肉厚マダイ」の審議を開始するにあたっての、問題の整理と考えられます。高 GABA トマトに次いで、肉厚マダイもまた、市場化に向けて政府が動き始めたといえます。この肉厚マダイの製造・販売を目指しているのが、京都にあるベンチャー企業リージョナルフィッシュ社で、京都大学助教授の木下政人と近畿大学教授の家戸敬太郎の二人が中心になって立ち上げました。

そのゲノム編集動物で新たな科学的知見が注目されています。それはゲノム編集で遺伝子を操作すると、エピジェネティック異常をもたらし、それが 10 世代後まで影響を残すことが確認されたことです。この研究を行ったのはザ MITRE コーポレーションの研究者であるハース・マリスらで、『BMC ゲノミクス』(2020年21号)に発表されました。それによるゲノム編集技術で DNA を切断した際に起きる意図しない現象、DNA のメチル化が起き、それが 10 世代先まで確認されたというものです。この現象は、胚の発達に混乱を生じさせる可能性があります。

種苗に表示を

GABA 高蓄積トマト「シシリアンルージュ・ハイギャバ」の登場で、まだ先だと思っていた遺伝子操作作物の国内栽培・販売が間もなく始まろうとしています。サナテックシード社は、種苗を販売する前に、苗の無償提供を打ち出し、一般の人たちを対象に募集を開始しました。実際に苗が提供され栽培が始まると、野放しの拡散が起き、遺伝子汚染が広がりかねません。そうになると、このトマトが、いつ私たちの食卓に登場するか分からず、食べたくないと思っても、それを拒否することができなくなります。

それを防ぐために、最低限、生産者も消費者も選べるようにできる表示が必要です。遺伝子組み換え食品については極めて不十分ながら食品での表示義務があります。そのため生産者も、種苗が遺伝子組み換えかどうかを知らないと、それが流通した際に食品表示法違反に問われてしまいます。しかし、ゲノム編集食品ではそれがないため、このままでは生産者が知らないうちに栽培して、消費者も知らないうちに食べることになってしまいます。

ゲノム編集作物が栽培されようとしている今、生産者が種苗の選択をするために、種苗への「遺伝子操作」表示は不可欠です。それは生産者の問題だけではありません。知らないうちに食卓に登場していたとなると、消費者による市場への不信や不安を増幅させます。

また、遺伝子操作作物の使用が禁止されている有機農家では、とくに大きな問題になります。知らないうちに栽培していた、ということではすまされません。それは有機農業自体の存続にもかかわる問題になります。

表示がないまま種苗が販売されると、遺伝子操作作物を栽培したくない生産者の選択権、遺伝子操作原料を使いたくない事業者の選択権、遺伝子操作食品を食べたくない消費者の選択権が奪われます。種苗法に遺伝子操作の有無を表示させることによって、生産者の選択を可能にし、それにより消費者の選択も可能にすることはとても大切です。ぜひ種苗に表示をさせましょう。

私たちの農場の営み

平成元年より「針江有機米栽培グループ(現:針江げんき米栽培グループ)」の一員として、減農薬栽培の取り組みをスタート、平成3年より無農薬栽培を始める。平成21年、有機JAS認証を取得、その後有機加工認証も取得

〈米づくりに対する想い〉

私たちの米づくりは「地の味」を大切に考えています。環境の負荷を最小限に抑えた農業を心がけ、可能な限り、地域由来の有機物や、またそれを発酵させた肥料を用いています。「大地の恵み」とよく言われる様に、農作物は環境からの頂き物です。そんな私たちの風土の恵みをお伝え出来る米づくりを心がけております。

コシヒカリやミルクキーン、いのちの雫など、今好まれるお米に加え、古代米、滋賀旭27号、地大豆「みずくぐり」など、古くから地域に伝えられてきた在来種の栽培に取り組んでいます。

□□生水の郷 針江地区□□

滋賀県、琵琶湖の西側「生水(しょうず)の郷 針江地区」。村の中は各家庭を始めとし、いたる所で生水(しょうず)と呼ばれる湧き水があふれ、600年以前より有る水路を使用した川端(かばた)文化と呼ばれる水を大切にきた暮らしを今も営んでいます。また弥生時代の遺跡でお米も発掘されている事から、水に恵まれた古くからの米どころ。

2004年、針江地区の一年の生活を綴った「映像詩 里山〜命めぐる水辺〜」が放送され、イタリア賞、ニューヨークフェスティバル、上海テレビ祭など海外でも数々の賞を受賞しました。現在も国内外からエコツアーに数々の人が訪れ、「平成の名水百選」、「日本遺産」にも選定されました。私たちはそんな環境で農薬、化学肥料を使用しない有機栽培の米づくりを営んでおります。



針江を流れる川に咲く
梅花藻

□□魚のゆりかご水田、魚道□□

その昔、琵琶湖と田んぼはつながっていました。フナやコイ、ナマズなどは外敵もなく安全で、水温が高くプランクトンなど栄養も多い田んぼの中で産卵をし、少し育ってから琵琶湖へ戻っていました。ところが、大規模化に向けての機械作業を可能にするため、全国でおこなわれた圃場整備事業により、田んぼと琵琶湖は別々のものになってしまいました。そして魚達も田んぼに上れなくなり、ブラックバス等の外来種が増えるに連れ、フナ等は減少の一途をたどっていました。そんな中、フナの稚魚の放流に加え、田んぼを魚のゆりかごにする取り組みを知り、条件の整った田んぼに魚道を設置しています。毎年、6月中下旬になると、雨の日にフナやナマズが田んぼへ上って産卵をしています。



魚道

日本で初めての宣言

□□ GMO Free Zone 宣言(遺伝子組み換え作物拒否地域宣言)□□

2005年「針江げんき米栽培グループ」として、消費者と共に日本で初めて「GMO Free Zone 宣言」を行いました。この運動はこの後日本全国に広がっていきました。

□□私たちの土地、農産物を伝える加工品□□

私たちの加工品は添加物、化学調味料、また表記されない製造過程においての原材料に対しての殺菌剤などは一切使用していません。購入する原材料は天然塩、有機原料の他、想いのある生産者、加工業者様からの原材料に限って使用しています。お餅や和菓子を加工する際には針江の生水(しょうず)を使用し、原材料の味を最大限に引き立つ様に心がけております。

また私どもの施設で加工出来ないものに関しては、全ての原材料を持ち込み、炭火焼のあられや、米粉など技術ある業者様に委託加工して頂いています。餅や和菓子と同じく「ホンモノ」にこだわり、これからも提案をし続けます。



□□ につぼん農紀行 ふるさとに生きる □□

私達の農場の一年を撮影していただきました。30分ほどの映像となっておりますが、ご覧いただけましたら幸いです。





中道農園は、お米づくり一筋 200 年。先祖代々、農家の血を受け継ぎ現在に至ります。そんな歴史を持つ中道農園は、滋賀県野洲(やす)市で、自然栽培(無施肥・無農薬栽培)や無農薬有機栽培のお米や玄米、発芽玄米(発芽まえちゃん玄米)などをネットで販売(通販)しています。

未来を創り上げる子ども達に役立とうと
「未来を大切に想う」農園です。

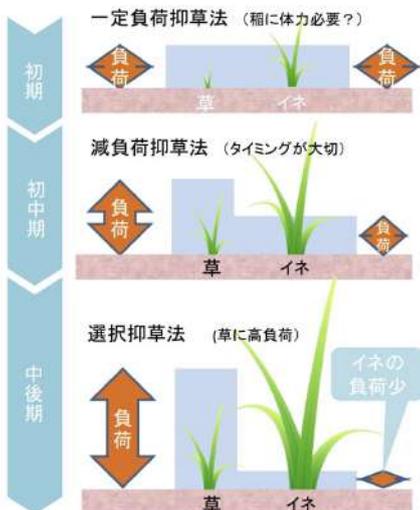
☆先代や園長が農薬で身体を壊したことから始まったオーガニック農業。当時は悪戦苦闘連続の年月で周囲の人々の理解も厳しい状況でしたが、今では多種多様な方々によって元気な農園が支えられています。

☆化学資材に頼らない「理想の農業」を追い求め

て四半世紀余り、美味しく健康的で生命力あふれる農産物の生産には、自然の摂理を尊重した素直な生産者と、そこから産み出される健康的な土壌や環境が不可欠と考えています。

これを実現するために先生や先輩方の教えを大切にしつつ、サイエンス農業と

して現場では失敗をもろともせず小さな実験を繰り返すことでオーガニック技術を磨いてきました。



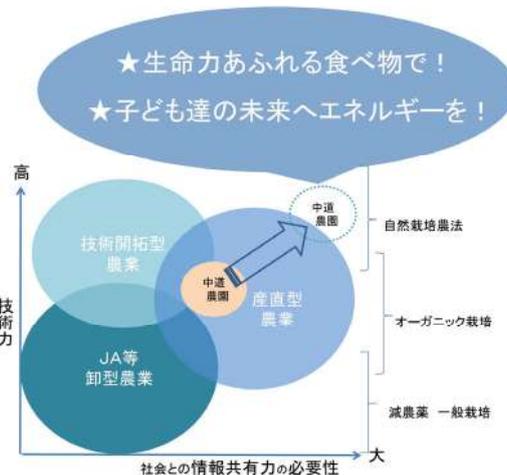
☆理想的農業の一つ自然栽培、化学資材はもちろん有機資材さえも一切使わない農法。作物はとても健康的でたくましく育ち生命力強いお米が収穫できます。

☆仲間と共に学ぶ勉強会、先生や先輩方から学んだ高度な技術と共に仲間と育んだノウハウを我々のものだけにせず皆で共有しています。

☆園長の添加物症状をきっかけに、お米から始まる各種アレルギー対策にも取り組み、「朝日」等の対策品種や、資材の影響を避けるために無肥料自然栽培の生産販売も好評をいただいています。



☆「フォーパーミル」炭素を多く含む有機物を積極的に利用した土づくりを進めることで作物と我々の健康、そして環境に貢献していきます。





みなくちファームについて

私たちは滋賀県高島市マキノ町にて化学肥料と化学合成農薬を一切使用しない農法で、露地野菜と原木椎茸、大豆やハーブの栽培を行っています。

地域への想い

私たちが就農したマキノ町は滋賀県の中でも特に雪深い地域です。冬が長く春が遅いので野菜を作ることが出来る期間はほかの地域よりも短いと思います。そのような地域でもずっと作り続けられてきた伝統野菜が原木椎茸とまくわうりです。原木椎茸のホダ場の周りにはカブトムシがたくさんいて、まくわうりはお盆になると家の中に甘い香りを漂わせてくれていた思い出の作物です。高齢化と農家の減少で全盛期に比べると地域の生産量は落ち込んでしまいましたが、みなくちファームでも就農当時より栽培に取り組んでいます。



原木椎茸



まくわうり



廃ホダ木



ホダ木堆肥の切り返し

循環型農業の取り組み

種が本来持つ力を発揮して生育するためには土壌を自然本来の状態に近づけることが一番大切だと思い、栽培が終わった原木椎茸の廃ホダ木を堆肥化し畑に戻す循環型の農業に取り組んでいます。廃ホダ木にはたくさんの菌と微生物が住み着いており、それが分解される過程は、落ち葉が土に還る過程とよく似ています。人工的に管理して毎年たくさんの有機物を圃場の外に持ち出している状態の土では、いつか野菜が育たなくなるのは明らかです。いつまでも自然の中で農業が出来るよう、これからも自然に迷惑のかからない農業の在り方を考えていきます。

次の世代、 またその次の世代に向けて

私たちは里山と呼ばれる環境の中で農業をしています。小さな時からその景色の中で暮らしてきましたが、この何十年で大きく様変わりしてしまいました。就農してその景色の一番身近なところにいて、たくさんの恩恵を受けながらも自分たちだけではどうすることも出来ないと諦めてしまっていました。ですが次第にみなくちファームを応援してくれる人も増え、これからの農業と一緒に考えてくれるスタッフも来てくれて、今なら一歩踏み出してもいいんじゃないかと思うようになり、今年荒地を整備しどングりの木を植えることを始めました。



今年植えた木が一人前になるまで12年～15年。私たちでもあと何回かは木を伐り、暮らしの中で木を活かす事を伝えることが出来ます。次の世代のために苗を植え、木の成長を見守り、林に育てる。今は度重なる台風の倒木や花粉症の陰で迷惑林のように言われる杉や檜も、きっと孫の代やその先の世代のために活かせる日が来るだろうとの思いから、膨大な労力を費やして先人たちはそうしてくれたんだろうと思います。今の私たちの行動が正しいかどうかはわかりませんが、種を蒔かずしては何も変わらないと思います。次の世代、またその次の世代がこの種を繋いでいってくださることを願っています。



Minakuchi Farm

原木椎茸と無農薬野菜

みなくちファーム

〒520-1833

滋賀県高島市マキノ町蛭口1386-8

TEL : 0740-20-1271

FAX : 0740-20-7955

E-mail : info@minakuchi-farm.com

2014年1月新規就農

年間作付面積 露地野菜430a/大豆50a/原木椎茸7,000本(自伐)

農産品加工 切り干し大根/乾燥椎茸/味噌/ハーブティー

主な出荷先 滋賀県内の道の駅等の直売所/県内外の飲食店など



初めてちゃんとできたのは確か大根でした。真夜中の仕事帰り、心身ともに疲れ、道端の大根畑で車をとめた私は、夜露に光る大根の葉になんとなく触れました。その時、当時流行っていた映画「E.T.」のワンシーンのように心も体も元気になりました。そんなことが重なり、自然農法の魅力に目覚め、そして専業を決心。実家に帰り、畑に挨拶回り。孤独なスタートでしたが、土は世界に繋がっている、土にも心がある！と、視界がパッと広がったのを思い出します。(友人からはお前大丈夫か・・・と心配されました^^。) 打ちのめされることもたまにありますが、日々清浄な土に癒され、作物からは元気をもらい、田畑で天国だなあ・・・と覚えることもあります。また、消費者の方の声に勇気と力、喜びをいただき、感激で涙が出そうなことも度々。農家冥利につきます。

自然は正直。壁にぶち当たった時、生き物の豊かさ、多様性に、やっぱり正しかった、これでよかったんだと。目から鱗の体験。

そして、種を採り続けること、そこには永遠の命の繋がりがああると思うのです。

最後に、最大の目標、夢、それは次世代農家を生み出すことです。彼、彼女らは、日本全国の故郷、

世界の希望、宝です。

これまで、自然農法のおかげで、素晴らしい仲間たちと出会うことができました。感謝を胸に、家族に支えられ、若者たちと夢の実現を目指し、使命感を持って自然農法をしていきたいと思っています。



羽ばたけ！研修生！

頼むよ！次世代！



秀明自然農法とは

秀明自然農法は岡田茂吉師（1882 ～ 1955）が提唱した自然栽培法で、自然堆肥以外の不純物を一切混ぜることなく、土を清浄化し、土自体の力を発揮させる農法です。『すべては自然が教えている』と岡田師が述べているように、この農法の理念は『自然順応・自然尊重』であり、清浄な土、自家採種された種子、生産者の作物への愛情と大地への感謝をその大きな特徴としています。

秀明自然農法の農作物

化学肥料・有機肥料・農薬を一切使用しない秀明自然農法の作物は、生命力が豊かで香りや味が濃く、天与の味わいのあるおいしい農作物です。また、化学物質や不要な成分の少ない安全で健康な農作物となり、アレルギー性皮膚炎や化学物質過敏症などの方が安心して食べられたという事例も報告されています。

自然農法の効果

1. 虫害が減る（害虫発生は肥料が原因）
2. 作物が健康に育ち、増収する（肥料を吸収すると弱る）
3. 肥料による健康への悪影響がなくなる
4. 肥料代が要らなくなる
5. 農薬・肥料を使用する労力が要らなくなる
6. 美味である

社名	株式会社はたけのみかた
代表取締役	武村 幸奈
設立年月日	2014年11月27日
所在地	〒520-3221 滋賀県湖南市湖南市三雲407-2
資本金	9,500,000円
事業内容	食料品製造業・イベント出店 等
理念	三方よしの精神で「気持ち」を大切にしました。モノ・コト・サービスを提供することにより、消費者の課題を解決し、農業の価値を高める。社会的に意義のある 持続可能なビジネスモデルを展開し「食」と「農」を通じて人々を豊かにする。

たけむらゆきな

2015年龍谷大学政策学部卒

2014年11月、起業

学生時代に取り組んだ農業振興の活動がきっかけで大学四年生時に3人の同級生とともに起業、代表取締役役に就任

2015年9月、商品販売開始

農家と子育て世代の課題解決に取り組む離乳「mana 四季の離乳食」の企画、製造、販売を自社で行い数多くの賞を受賞し、各メディアでも注目されている。

- 2016年02月 しがNEWビジネスプランコンテスト 応援賞
- 2016年02月 京都信用金庫 地域の起業家アワード優秀賞
- 2016年06月 近税京信連絡協議会 起業家アワード
- 2016年02月 カラーミーショップ大賞2016(6万店以上のネットショップからNo.1を決める賞)ジャンル賞「フード部門」
- 2016年11月 ここクールマザーレイク・セレクション2016
- 2017年06月 平成29年度内閣府男女共同参画局「女性のチャレンジ賞」(年間4名) 等



はたけのみかた

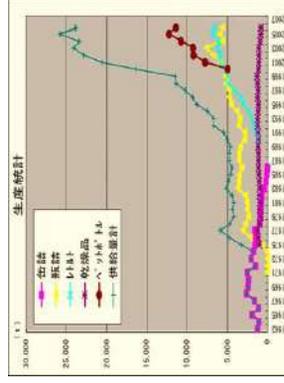
はたけのみかた

【 社会課題背景 1 】

女性の社会進出とベビーフードの売上げ増加

近年、女性の社会進出に伴い多忙な子育て世代が増加しています。中でも離乳食を作る事は多大な手間を要するため、市販の「ベビーフード」の売上は近年急激な右肩上がりになっています。

しかしながら、既存の他社製のベビーフードは**大量生産**の為の「**原材料や産地の不透明さ**」「**味つけの不自然さ**」(多すぎる調味料・甘味料・添加物)」「**加工による食感・風味の喪失**」等の弱点があり、母親は「使用に対する罪悪感(手抜き、悪い母親だ)」「赤ちゃんを食べたくない」等の悩みを抱えています。

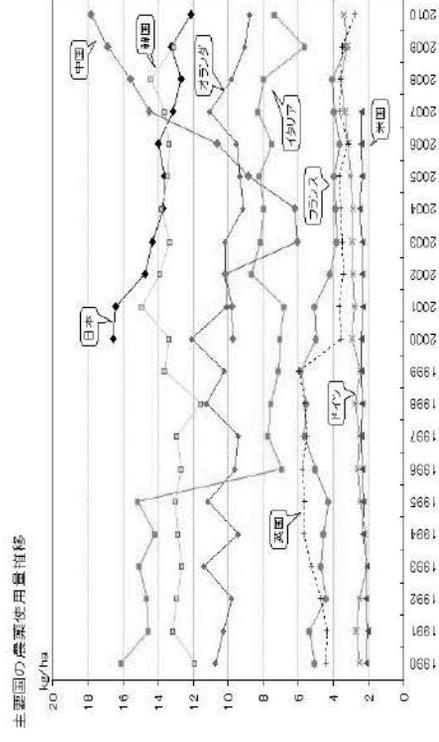


ベビーフードの生産量の推移
(日本ベビーフード協議会)

【 社会課題背景 2 】

有機農家の苦悩と需要の停滞

世界の中で2番目に農薬使用量の多い日本(2010年時点)において、有機農家は全農家のうち約1%強だと言われていますが、技術的な難しさもあり、労力や資金もかかる中で、市場の規格外の収穫状況にもなりやすいと言われています。そんな中、未だ日本での有機野菜の需要は高いとは言えず(家庭内シェア率ヨーロッパ諸国約300分の1)、労力が収益に見合わないと訴える農家も多く、新規就農の定着率も低迷しています。



(注) Active ingredient use in Arable Land & Permanent Crops(耕地面積当たりの有効成分農薬使用量)。農薬は農薬用のみ(休野・公園・ゴルフ場など非農薬用の農薬を除く)。(資料) Faostat 2013.8.4

【農業振興のためになぜ”離乳食”なのか】

「安心を求める母親」と「安心を作る農家」をつなぐ離乳食開発をめざしてー

① 母親のベビーフードの悩みを解決

私たちは考えたのです。現代の忙しい母親たちが「忙しいから、仕方なくベビーフードを使う」。そんなうしろめたさではなく、「本物の素材」による「安心感」を実現したい。そして、それは有機農家だからこそ提供できるのではないだろうか。農業はきつと課題を解決する力を持っており、母親の力になれる。そうして、母親が子供に心から進んで食べさせたいと思えるような、「本物の高品質」を実現するかつてないベビーフードの開発がスタートしました。



うしろめたさ

「本物」による
「安心感」

② 同時に、有機農業の課題に取り組み

子育て世代は食への関心は人一倍。だから、有機野菜への関心が薄いお母さんにも、「ほかのベビーフードにはない、素材がそのまま残った美味しさ」「これまでにない安心への価値観」を求めて手に取ってもらえる。さらに商品に有機農家の名前を明示し、一人一人の素顔をウェブで消費者に伝えることで、安心感・農業への関心の向上も目指せる。また、有機農業で発生しやすい市場の規格外の農産物も「加工すれば問題なく使用できる」というのもベビーフードならではの利点。高品質だが廃棄になることもある規格外の農産物を、通常の売価以上の高価で買い取れば、農業支援もできる。ベビーフードは、農業にとってもとてもいいことがある商品だと考えたのです。

mamma

四季の離乳食

農業に関心が薄い日本だから、

「有機野菜だよ」と宣伝しても手に取ってもらえないことはなかなか難しい。

しかし、母親の困り毎を解決できる商品だったらどうだろうか？
きっと、はじめは農業に関心がなくても、手に取ってもらえる。

母親の「もやもや」を解決できる商品が作れたら、
忙しい母親のために、そして農業の為にもなれるはず。

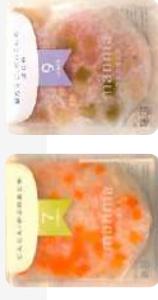
私たち「株式会社はたけのみかた」は、現代の母親たちが使い
たくなるような、おいしくて、安心できて、おしゃべりなのに
どこか懐かしい今までにない新しいベビーフードを作りました。

キーワードは「旬」と「本物の素材そのままの味」、「無農薬」
そして生産者との「顔の見えるつながり」。

私たちは今まで、滋賀県の「本当に信頼できる」農家さんたちと
出会い、その原材料の一つ一つを選び抜き、新たなベビーフード
の完成に向けて歩きつづけてきました。

【これまでのベビーフードとの違い】

manmaは何故「農業に関心がなかった」母親にも求められるのか



● これまでの国産ベビーフード

国産という事はわかって、どこでどのように栽培・加工されたかは依然不透明です。また大量生産故の「味を均一化」のため過剰な殺菌加工をされ**素材の味や食感**は壊れ、食べても何の野菜かわからない事は稀ではありません。その分、大人にも濃いと思う**程味付けが濃い**ものも多く販売されています。

● 「manma」はここが違う(特徴一部紹介)

滋賀県産の有機野菜使用。約15件の農家が離乳食の為に最高品質の野菜を作っている事をネット等で綿密に伝え、他の素材もアレルギー対応・放射能検査済。「安心して使える」と実感して頂いています。

本当に美味しい旬の野菜の**風味や食感を「そのまま」伝える製法**を考案し、薄味で、「野菜の味を教えらる・手作りと同じ風味」を目指しました。大人でも美味しく、食べさせたくなくなる離乳食です。

ベビーフードは外での使用が多いので**軽量もちほこびやすく、ごみの分別が容易（瓶は重く外で分別し辛い）**、更に開封後は自立するパッケージを採用。また人前で買う・使う事も多いので、その後ろめたくなくいよう敢えて「ベビーフードに見えない」、おしゃれなパッケージを採用しました。

【 母親の課題解決と同時に、有機農業の課題に取り組む 】

市場で買い取ってもらえないことも多い野菜

規格外の野菜を高値で買い取り

有機栽培は市場の規格外の野菜が出来やすいといわれていますが、そのような野菜もまとめて、**高額で買い取っています**。通常は**廃棄になるような野菜を積極的に加工**でき、また日々の農作業の負担の削減にも、そのような農業への貢献をめざしています。

正当な野菜の価格を模索する

市場に左右されない価格

天候などの条件によって上下する野菜の価格。それに対し、弊社では野菜の価格は世の商品のように「**農家の労働時間」「原価」「想い**」などで決められるべきだと考えます。市場価値ではなく、「その野菜や農業の価値」に対価を支払う。いいものには、いい価格を。よりやりがいのある農業の実現を目指します。

「有機農業は稼げない」そんな彼らの口癖を変え、「有機農業は稼げる」そんな口癖を当たり前にしたい。そして課題解決をする農業を実現し、農業の新たなやりがいを高めていきたい。**稼げる、やりがいがある。そんな農業は、社会に必要とされ、新規就農者をも定着させる魅力的で持続可能な農業**であると考えています。



2021年 GMO フリーゾーン登録状況 (2021年2月現在)

農地

	2020 面積 (ha)	前年 増減	2021 面積 (ha)	前年 増減
北海道	46,921.3	683.7	47,652.6	731.3
青森県	319.9	206.0	380.2	60.3
岩手県	3,246.8	65.0	3,247.8	1.0
宮城県	7,841.2	105.6	7,841.2	0.0
秋田県	333.9	20.0	333.9	0.0
山形県	5,209.7	24.2	5,209.7	0.0
福島県	287.8	10.0	287.8	0.0
茨城県	557.2	80.6	557.2	0.0
栃木県	2,216.5	28.0	2,216.5	0.0
群馬県	216.9	61.0	218.9	2.0
埼玉県	384.6	50.0	391.3	6.8
千葉県	1,840.1	716.0	1,875.4	35.3
東京都	598.2	408.0	598.2	0.0
神奈川県	414.6	168.0	414.6	0.0
新潟県	191.0	0.0	191.0	0.0
富山県	46.0	6.0	46.0	0.0
石川県	1.1	0.0	1.1	0.0
福井県	4.3	0.0	4.3	0.0
山梨県	1,464.1	0.0	1,464.1	0.0
長野県	353.3	13.5	375.5	22.3
岐阜県	137.4	18.7	137.6	0.2
静岡県	118.7	10.5	125.7	7.0
愛知県	3,453.0	295.4	3,456.0	3.0
三重県	378.3	1.1	379.4	1.1
滋賀県	376.1	80.3	376.1	0.0
京都府	106.6	31.0	115.0	8.4
大阪府	702.9	69.3	702.9	0.0
兵庫県	8,014.5	511.8	8,017.3	2.8
奈良県	381.4	9.3	381.4	0.0
和歌山県	32.0	0.0	32.0	0.0
鳥取県	1,206.0	8.0	1,206.0	0.0
島根県	190.9	1.5	229.9	39.0
岡山県	87.9	63.8	91.2	3.2
広島県	100.8	20.0	104.1	3.3
山口県	952.8	3.7	952.9	0.1
徳島県	7,091.3	41.6	7,109.3	18.0
香川県	78.8	2.5	78.8	0.0
愛媛県	439.1	147.9	439.1	0.0
高知県	669.1	3.3	669.1	0.0
福岡県	1,167.6	84.6	1,356.0	188.4
佐賀県	2,234.5	1.9	2,234.5	0.0
長崎県	849.0	16.8	852.0	3.0
熊本県	1,355.0	208.7	1,397.0	42.0
大分県	149.6	0.6	151.1	1.5
宮崎県	275.9	3.3	276.5	0.6
鹿児島県	466.3	2.0	511.8	45.5
沖縄県	8.6	0.0	26.1	17.5
合計	103,472.4	4,283.0	104,715.9	1,243.5

海

	2020 面積 (ha)	前年 増減	2021 面積 (ha)	前年 増減
東京湾	120,000.0	0.0	120,000.0	0.0
佐賀県	6.7	0.0	6.7	0.0
合計	120,006.7	0.0	120,006.7	0.0

牧場

	2020 面積 (ha)	前年 増減	2021 面積 (ha)	前年 増減
北海道	142.5	0.0	142.5	0.0
群馬県	15.5	0.0	15.5	0.0
千葉県	1.0	0.0	1.0	0.0
山梨県	0.6	0.0	0.6	0.0
長野県	20.0	0.0	20.0	0.0
岐阜県	6.0	0.0	6.0	0.0
滋賀県	4.0	0.0	4.0	0.0
鳥取県	100.0	0.0	100.0	0.0
広島県	0.3	0.3	0.3	0.0
熊本県	2.5	0.0	2.5	0.0
合計	292.4	0.3	292.4	0.0

森林

	2020 面積 (ha)	前年 増減	2021 面積 (ha)	前年 増減
北海道	5.3	0.0	5.3	0.0
山形県	0.6	0.0	0.6	0.0
福島県	13.0	0.0	13.0	0.0
群馬県	2.6	0.0	2.6	0.0
千葉県	2.5	0.0	2.5	0.0
長野県	6.0	0.0	6.0	0.0
岐阜県	49.0	0.0	49.0	0.0
静岡県	6.0	0.0	6.0	0.0
愛知県	1.6	0.0	1.6	0.0
三重県	0.1	0.0	0.1	0.0
滋賀県	3.0	3.0	3.0	0.0
奈良県	2.0	0.0	2.0	0.0
鳥取県	20.0	0.0	20.0	0.0
山口県	202.4	0.0	202.4	0.0
徳島県	40.0	0.0	40.0	0.0
愛媛県	2.0	2.0	2.0	0.0
高知県	4,021.0	0.0	4,021.0	0.0
福岡県	2.3	0.0	2.3	0.0
長崎県	2.2	2.2	2.2	0.0
熊本県	0.0	0.0	0.0	0.0
大分県	7.0	0.0	7.0	0.0
宮崎県	10.4	10.0	10.4	0.0
鹿児島県	4.1	0.0	4.1	0.0
合計	4,403.0	17.2	4,403.0	0.0

※遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン集計

個人サポーター

	2020 登録(人)	前年 増減	2021 登録(人)	前年 増減
北海道	3	1	3	0
青森県	55	0	66	11
岩手県	312	1	342	30
宮城県	481	38	481	0
秋田県	0	0	0	0
山形県	39	0	39	0
福島県	12	2	12	0
茨城県	881	0	881	0
栃木県	644	0	644	0
群馬県	155	1	181	26
埼玉県	988	0	1,294	306
千葉県	1,948	0	2,588	640
東京都	3,162	2	3,382	220
神奈川県	3	1	126	123
新潟県	0	0	0	0
富山県	0	0	0	0
石川県	0	0	0	0
福井県	1	0	1	0
山梨県	23	0	92	69
長野県	40	0	51	11
岐阜県	72	0	84	12
静岡県	421	0	585	164
愛知県	1,002	4	1,220	218
三重県	4	2	6	2
滋賀県	163	33	188	25
京都府	448	2	621	173
大阪府	1,379	39	1,462	83
兵庫県	784	2	785	1
奈良県	269	1	269	0
和歌山県	1	0	1	0
鳥取県	61	1	61	0
島根県	20	1	39	19
岡山県	285	76	478	193
広島県	534	312	1,020	486
山口県	577	114	673	96
徳島県	45	0	45	0
香川県	31	0	31	0
愛媛県	40	0	40	0
高知県	51	0	51	0
福岡県	932	639	932	0
佐賀県	172	17	273	101
長崎県	234	44	242	8
熊本県	727	51	791	64
大分県	223	9	242	19
宮崎県	170	43	207	37
鹿児島県	136	2	145	9
沖縄県	0	0	0	0
合計	17,528	1,438	20,674	3,146

事業者サポーター

	2020 登録(社)	前年 増減	2021 登録(社)	前年 増減
北海道	1	0	1	0
宮城県	5	0	5	0
山形県	1	0	1	0
福島県	2	0	2	0
栃木県	2	0	2	0
埼玉県	3	0	4	1
千葉県	4	0	5	1
東京都	25	0	29	4
神奈川県	0	0	1	1
長野県	3	0	3	0
岐阜県	3	0	4	1
静岡県	1	0	2	1
愛知県	17	0	21	4
三重県	2	0	2	0
滋賀県	2	1	2	0
京都府	1	0	1	0
大阪府	4	0	4	0
兵庫県	2	0	3	1
高知県	1	0	1	0
福岡県	1	0	1	0
長崎県	1	0	1	0
熊本県	1	0	1	0
鹿児島県	2	0	2	0
沖縄県	1	0	1	0
合計	85	1	99	14

※遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン集計

2020年度 グリーンコープ共同体 活動報告

2021年3月19日

グリーンコープやまぐち理事長 佐々木 春代

一、はじめに

グリーンコープには、九州、中国地方、滋賀、兵庫、大阪に住む42万人の組合員が集っています。私たちは、家族の健康と未来を守っていきたく願う母親の想いから出発し、平和な社会と安心・安全、心豊かな暮らしを実現するために様々な運動を創り出してきました。特に「生命（いのち）を育む食べもの」については、食の安全を脅かし生物多様性を破壊する遺伝子組み換え作物（GMO）に反対する運動を開始して以来、一貫して「いらない」「食べない」「作らせない」という運動を続けています。作物や商品の原料、畜産の飼料について徹底的にnon-GMOを追求し、遺伝子組み換え作物が使用されているかどうかをカタログで案内しています。また、「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」と連動して、全国の同じ思いの仲間とともに、GMOフリーゾーン運動、自生GMナタネ調査活動や、GM食品に表示を求める運動などに取り組んでいます。

二、GMOフリーゾーン運動について

2020年度も遺伝子組み換え作物は植えない、売らない、買わないことを宣言するGMOフリーゾーン運動に取り組みました。GMOフリーゾーン運動は、自然と共生しながら多様な種や農法による農業を営み、自然と共生する人間の暮らしを守る運動であり、いのちを守り育む人たちが連帯する運動と言い換えることもできます。

グリーンコープでは、フリーゾーンを広めていくために、組合員に向けてはサポーター登録を呼びかけ、グリーンコープと関わりのある生産者、メーカーへは、フリーゾーン運動の理解と拡大を図りました。

今年度の登録は、グリーンコープエリア全体で、GMOフリーゾーンサポーター宣言が1,062人、農地が727.26ha、家庭菜園15人で0.3haとなりました。

三、自生GMナタネ調査活動

2005年春から全国一斉にスタートしたGMナタネの調査活動は、今年で16年目になります。毎年全国各地で遺伝子組み換えナタネの自生調査が行なわれ、輸入したGMナタネが港や輸送路だけでなく住宅地でも見つかり、さらには、雑草との交雑種が見つかるなどGMナタネによる汚染は深刻な様相を呈しています。今年も14単協で234カ所の調査を行ない、一次検査で3検体からラウンドアップ耐性、14の検体からバスタ耐性の陽性反応が出ました。9月28日（月）に、天笠啓祐さんを講師としてお招きし、「遺伝子組み換え・ゲノム編集食品・グリホサートの現状」という演題で講演いただき、今年度の調査活動に関する報告会を開催しました。陽性反応が出た単協（グリーンコープひょうご、グ

リーンコープふくおか)や、遺伝子組み換え作物反対署名活動を継続し、学校給食においても遺伝子組み換え食品を使用しないでほしいという要望を届けているグリーンコープくまもとの様子について、以下の内容で報告がありました。

<グリーンコープひょうご>

兵庫県にはナタネの水揚げ日本一の神戸港があります。2016年、2017年の調査においてGMナタネを発見し、2018年は見つけれませんでした。昨年度の調査では兵庫県神戸市の深江浜の工場がある地域で、自生している遺伝子組み換えナタネがたくさん見つかりました。昨年度の全国報告会において、他団体が兵庫県に要望書を提出されたことや、神戸市環境局を訪問し、自生GMナタネの抜き取りについて工場への申し入れをされたことなどを知りました。その中で荷揚げ場所の甲南埠頭からJオイルミルズに運ぶベルトコンベアーに破損があり、そこから種がこぼれて三井製糖の敷地内やその外にも遺伝子組み換えナタネが自生したことがわかりました。今年度は、2016年に陽性が出た東灘区と芦屋市を結ぶ県道722号に点在しているナタネを採取し、GMナタネであることを確認できました。他の植物との交配の可能性がでてくるため、自生GMナタネは出来るだけ抜き取りたいと考えます。今後に向けては、神戸市以外の地域の調査も引き続き行ないたいと思います。

<グリーンコープふくおか>

今年度は41カ所で抜き取ったものの中から、ラウンドアップ3、バスタ12の陽性反応がでました。北九州方面のトラックの往来の多いインターそばの道路や、地元の方がnon-GMOのナタネを栽培されている隣町で、初めて陽性反応が出ています。これから危機感を持ち調査をしていきたいと思えます。九州で唯一輸入ナタネの水揚げ港の箱崎ふ頭では、毎年陽性反応が確認されています。4月25、27、28日の三日間、福岡地方ワーカーズ19名で2,642本の抜き取り活動を行ないました。抜き取ったナタネはその場で検査を行なっていません。毎年、黄色いベストを着用し、活動をアピールしていましたが、今年度はコロナ禍の影響もあり、ベストの着用はせずに少人数で取り組みました。できることを少しずつ継続することが抑止力に繋がると思えます。大野城市では、交通量の多い国道の中央分離帯に生えているナタネは、自分たちで抜き取ることは困難なため、管轄する整備事務所に抜き取りを文章で要請し、その後、市で除草作業が行なわれています。昨年、「Mothers' Week (マザーズウィーク)」をnon-GMO強化月間と位置づけることを確認し、今年度はnon-GMOのポスターを作成しました。他の単協にも呼びかけ、支部や店舗に貼り、活動をアピールしていきます。

<グリーンコープくまもと>

昨年度の調査活動を受けて、2020年度も熊本県・県内市町村に宛てた署名活動に取り組みました。要望の趣旨は、「遺伝子組み換えナタネの定期的な監視、

飛散防止のための指導を行なってください。」「未来を担う子どもたちのすこやかな成長のために、熊本県の学校給食に遺伝子組み換え食品を使用しないでください。」というものでした。自生GMナタネ汚染調査と、調査後の遺伝子組み換え作物反対署名活動を継続してきたことで、組合員が署名を届け、調査報告で訪問する各行政へ情報を共有し、連携を深めることで少しずつ前進しています。グリーンコープが毎年調査を行なうことで遺伝子組み換え作物についての意識が深まり、抑止力にもなっていくのではないかと思います。また、グリーンコープくまもとでは、2017年度から学校給食においても遺伝子組み換え食品を使用しないでほしいという要望を届けています。学校給食は、地産・地消を基本に進められている様子ですが、菊池市ではnon-GMOのナタネの油に切り替えが実現しました。水俣市や熊本市からは学校給食に遺伝子組み換え食品は使用していない、また、天草市からは、「学校給食物資納入の手引き」を新たに作成し、“GM食品（遺伝子組み換え食品）を使用したものについては受け付けない”旨を手引き中に明記するなど、ご要望のありました件については、対応を行なっているところです。との嬉しいお返事をいただきました。今後も社会的な監視活動として、調査活動を続けていきたいと考えます。

四、GM食品に表示を求める運動

ゲノム編集技術を使った食品の販売や流通に関する届け出制度が、昨年（2019年）10月に始まり、消費者庁は表示義務を設けないことを表明しています。受けて、3月グリーンコープでは食品メーカー19社に向けて「ゲノム編集食品に関するお問い合わせ」というお手紙を届け、11社から回答をいただきました。また、多くの人にゲノム編集技術について知ってもらうきっかけにしたいと、9月全組合員に向けてゲノム編集食品アンケートに取り組みました。その後、全組合員に向けての報告チラシ、機関紙「共生の時代」やホームページなどで公開しました。また、2018年にグリーンコープの遺伝子組換え反対運動を表現するnon-GMOマークのデザイン募集を広く組合員に呼びかけ、理事会で最終確認し、昨年ようやく商標登録が確定しました。今後、カタログやチラシなどの広報媒体で活用していきたいと考えています。

五、おわりに

GM作物が栽培されて20年以上、先進国では使用される除草剤が人々の健康を脅かしており、除草剤ラウンドアップの主成分のグリホサートは、農業現場だけでなく身の回りでも使用され、私たちの健康や環境を危険にさらしています。このようなGM作物によりもたらされた深刻な問題をふりかえることなく、ゲノム編集技術が登場してきました。

次年度に向けても、さらにGMフリーゾーン運動や自生GMナタネ汚染調査活動、GM食品に表示を求める運動など遺伝子組み換え反対運動に弾みをつけていきたいと考えます。

以上

2020年度 生活クラブのGMOフリーゾーン運動

サステイナブルなひと、
生活クラブ

生活クラブ生協（東京）理事長／生活クラブ連合会理事 増田 和美

生活クラブでは、遺伝子組み換え作物を「作りたくない」「食べたくない」生産者・消費者の共感を広げる活動として、GMOフリーゾーン運動に取り組んでいます。また、GMナタネの自生調査と生物多様性を守る運動、GM食品表示制度改正の運動などにも活発に取り組んできました。ゲノム編集技術については、安全性への疑問、生物多様性への影響、「種子の独占」のさらなる拡大を深く懸念しています。2019年度連合総会で、特別決議「ゲノム編集食品の商業流通に懸念を表明し、生産者とともに対策をすすめます」を採択し、ゲノム編集食品を受け入れないことを基本姿勢とする方針を決定しました。

2020年度、GMOフリーゾーン面積は379.3ha増加して64,207.8haになりました。

サポーター登録は、今年も各地域での呼びかけがすすみ、2,018人が新たに登録。合計で13,036人になりました。加工・流通・店舗のサポーターの登録は4件で、合計で41事業所が登録しています。

GMOフリーゾーン面積 (ha)

都道府県	2019年度末	2020年度	2020年度末
北海道	42853.3	339.0	43,192.3
青森県	43.5		43.5
山形県	4628.9		4,628.9
岩手県	104.4		104.4
福島県	2.4		2.4
宮城県	7500		7,500.0
新潟県	80		80.0
栃木県	2011.2		2,011.2
茨城県	246.5		246.5
群馬県	118.1	2.0	120.1
埼玉県	328.8	0.8	329.6
千葉県	467.8	35.3	503.1
東京都	90.2		90.2
神奈川県	190.9		190.9
山梨県	59.9		59.9
愛知県	2889.7	0.0	2,889.7
長野県	270.4	2.3	272.7
三重県	191.5	0.0	191.5
滋賀県	267.9		267.9
奈良県	218.1		218.1
和歌山県	12.2		12.2
京都府	1.5		1.5
大阪府	584.9		584.9
兵庫県	25.1		25.1
奈良県	5		5.0
岡山県	0		0.0
鳥取県	10		10.0
島根県	30		30.0
愛媛県	135		135.0
高知県	1.8		1.8
福岡県	315.3		315.3
長崎県	30		30.0
熊本県	114.2		114.2
合計	63828.4	379.3	64,207.8

サポーター（個人）人数（人）

都道府県	2019年度末	2020年度	2020年度末
北海道	1		1
青森県	69	11	80
山形県	36		36
岩手県	375	30	405
宮城県	1		1
栃木県	672		672
茨城県	889		889
群馬県	207	26	233
埼玉県	-	306	306
千葉県	2,572	639	3,211
東京都	3,553	220	3,773
神奈川県	170	123	293
山梨県	23	69	92
愛知県	924	169	1,093
長野県	29	11	40
静岡県	412	163	575
京都府	554	53	607
大阪府	228	173	401
兵庫県	140		140
滋賀県	153	25	178
鹿児島県	10		10
合計	11,018	2,018	13,036

*2020年度の加工・流通・店舗のサポーターの登録は4件で、合計で41事業所が登録しています。

生活クラブでは、地域ごとに工夫して、GMOフリーゾーンとサポーターの登録を呼びかけています。登録を呼びかけることが、遺伝子組み換えについて情報を伝える機会となっています。2020年度の活動から、いくつかの事例をご紹介します。

●フリーゾーン登録

北海道では、生活クラブ北海道単協の一部の鶏卵生産者に飼料を供給している北海道子実コーン組合が、岩見沢市、長沼町など合計339haの圃場をフリーゾーン登録しました。登録票には、「北海道産のNON-GMO子実とうもろこしが、安心・安全な食品原料や飼料原料として使用が広がることを願っています」とメッセージがありました。

長野では、生活クラブ長野の組合員が経営する有機栽培のバラを原料とする化粧品会社が、バラの栽培農場2000坪をフリーゾーン登録しました。

千葉では、ユニバーサル農業を実践する「社会福祉法人生活クラブ風の村」の「生活クラブ虹と風のファーム」の35haが登録されました。千葉県八街市に看板も設置予定です。



フリーゾーン登録したバラ園

●サポーター登録

山梨では昨年度、映画『たねと私の旅』の上映会を行ない、映画を見た後に映画の中でたびたび登場している「キッシュ」を参加者で食べながらディスカッションし、サポーター宣言の話をしました。本年度は一堂に会しての企画は出来ませんでした。単協独自のチラシを作成し組合員に配布。同時に組合員へも配達時や様々な機会がある際に声掛けをした結果、69人の登録を募ることが出来ました。

岩手では、11月から環境委員中心に遺伝子組み換え作物、ゲノム編集について学習し、11、12月に環境委員が支部で組合員や周りの人に、遺伝子操作された作物・食品の問題点について話し、サポーターへの登録を呼びかけました。

生活クラブ大阪では、エコライフ活動3委員会（NON-GM委員会、環境委員会、自然エネルギー委員会）の合同企画を6回開催し、サポーター宣言を呼びかけました。NON-GM委員会は30分の枠の中で、生活クラブの材や、しくみを使うことで、様々な問題解決につながっていることを伝えるために、生活クラブのある暮らしの1日を、人形を使って紹介しました。

各単協がそれぞれ独自のチラシを作成し、組合員一人ひとりに配布することで、サポーターが広がってきています。

生活クラブ京都エル・コープのチラシより



宣言した人にマグネットを届けます（京都）

2020 年度 遺伝子組み換えナタネ自生調査報告

生活協同組合あいコープみやぎ 辻朗子

採取場所	調査数	ラウンドアップ耐性	バスター耐性
全て宮城県内			
石巻市 三河町など石巻港付近	17	2	8
仙台市 宮城野区 仙台港付近	1	0	0
大崎市松山	1	0	0
大崎市古川 旧富士飼料近辺	1	0	0
大郷町	3	0	0
合計	23	2	8

今年度は 23 検体を検査した。
 石巻港(2013、2015 年にラウンドアップ耐性、2018 年にバスター耐性のナタネを発見)、仙台港付近、内陸(国道沿い)の飼料工場近辺を調査。結果は石巻港にてラウンドアップ耐性を 2 検体、バスター耐性を 8 検体確認。

・**石巻港**…過去最多の GM ナタネ確認。
 さらにラウンドアップ・バスター両方発見は初。
 港湾事務所の県職員の協力を得られた。

拡大版

・**仙台港**…飼料会社の周辺道路を調査。
 群生しているのはハタザオガラシ。
 組合員の参加ができなかったため、食ベママのフェイスブックにてライブ配信に初挑戦！

石巻市 JA 全農北日本くみあい飼料周辺



除草剤をまかれた中に咲くラウンドアップ耐性ナタネ



ラウンドアップ耐性に陽性反応



今年は理事だけのちよっぴり寂しいナタネ調査隊

仙台港 仙台サイロ・仙台飼料前

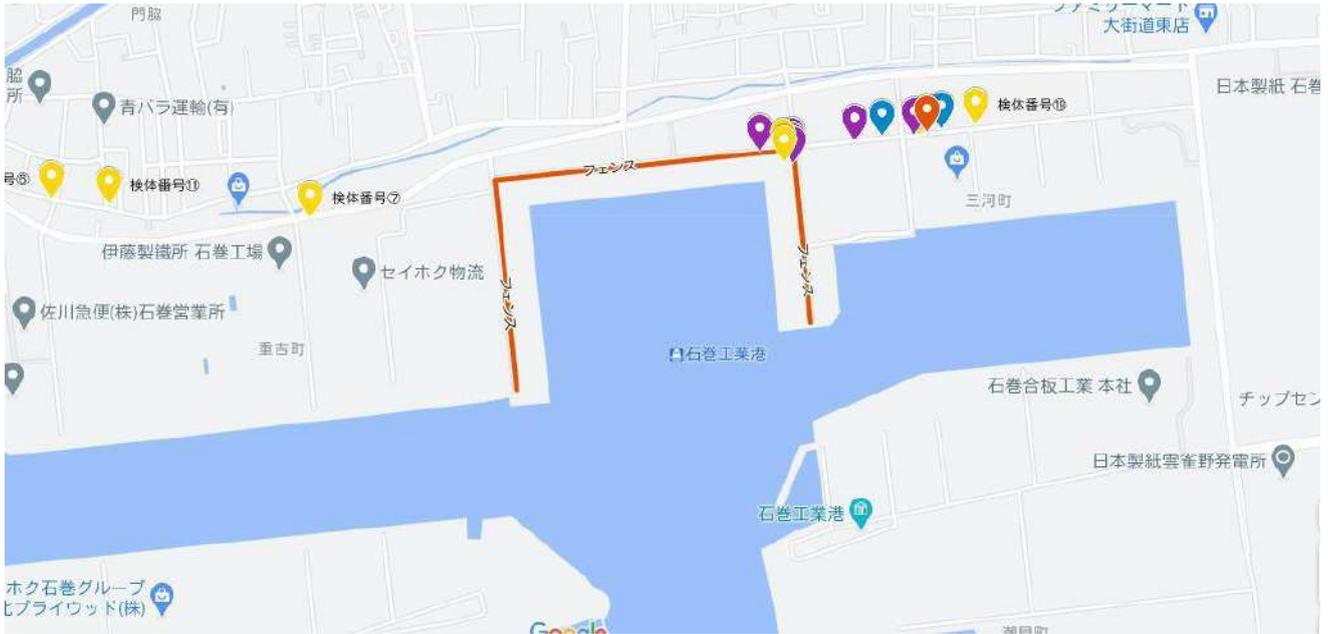


食ベママみやぎのフェイスブックにてライブ配信

除草剤の多用が懸念される



分離帯の青々した雑草と比べて不自然な枯れ方



拡大版



- 青マーク：グリホサート耐性ナタネ
- 紫マーク：バスター耐性ナタネ
- 黄色：非遺伝子組み換えナタネ
- 赤マーク：今年度最後（11/30）に発見されたバスター耐性ナタネ

第 15 回 GMO フリーゾーン全国交流集会 in 滋賀
生活協同組合連合会 コープ自然派事業連合
2019 年度・2020 年度活動報告



コープ自然派おおさか 常任理事 清水直子

～2019 年度活動報告～

● GMO フリーゾーン農地登録の広がり

2019 年度は全国で 49 の生産者の方々が農地のフリーゾーン宣言をして下さいました。この1年間の登録面積は 1665.74 ヘクタールです。北海道の有機小麦の生産者(左)、北海道の有機農業協同組合(中)、兵庫県豊岡市のコウノトリ育むお米の生産者(右)など、フリーゾーン運動の重要性について理解を深めていただく機会になりました(サポーター登録は 201 名)。



GMO フリーゾーン 2019 年度農地登録面積(ha)

北海道	兵庫	青森	愛媛	熊本	徳島	岐阜	長野	鳥取	その他
648.46	488.50	200.00	144.50	104.40	38.63	18.00	9.50	8.00	5.75

*その他：高知、福岡、京都

合計：1,665.74 ha

● GM ナタネ自生調査、企業と行政への働きかけ

2019 年 3 月の神戸港での GM ナタネ自生 (75%陽性) の現状をうけ、6 月に行政と企業に拡散防止とナタネの抜き取りを申し入れに行きました。8 月には近畿地方の環境省を訪れ、拡散防止文章を渡し、活動の説明を行いました。消費者から企業側にこのような申し入れがあったのは初めてのことです。企業側は協力的で、2020 年 3 月の GM ナタネ自生調査は私たちと合同で行う予定でしたが、コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、草の根運動の大きな成果だと感じています。

● 畜産生産者訪問～現地で GM 問題学習会開催など

秋には鹿児島島の枕崎牛生産者の牛舎を訪問しました。ここは私たち組合員の要望を受けて、NONGM 飼料への転換を少しずつすすめてもらっています。今回の訪問では初めて生産地で GM 問題学習会を開催しました。熱心に聞かれ、自分にできることは何かを考えていきたいとおっしゃる方もいて、危険性を知るきっかけになったのではと思いました。12 月には国内で 3 番目となる有機 JAS 認定オーガニックたまごの生産者も訪問。もともと徳島の平飼いたまごの生産者でしたが、アニマルウェルフェアの考え方に基づいた

環境を整え、厳しい経済状況下で果敢にチャレンジされています。また、高知では放牧酪農の牧場を見学しました。NONGM/PHF(ポストフリーハーベスト)飼料と目の前に広がる日本芝を食べて育っています。ストレスのない自然豊かな環境から生まれる牛乳本来のおいしさの理由を改めて確認できました。飼料問題や飼育環境などについて生産者と直接、意見交換ができる場を今後も設けていきます。

● 大豆畑トラスト(兵庫)

消費者団体と生産者で実行委員会を結成し、ひょうご大豆畑トラスト運動を継続しています。賛同者は 144 名、賛同数は 317 口。在来種シャッキンナシの種まき、枝豆収穫、大豆収穫の作業を体験しました。活動日の昼食は、大豆ごはん、みそ汁、豆腐、納豆と大豆づくりの食卓を囲みながら種のこと、農業のこと、GMのことを語り合いました。



● 学習会、講演会、上映会、ゲノム編集食品を規制する署名活動など

ゲノム編集食品に強い危機感を感じ、学習会開催や規制を求める署名活動に参加しました。また大きな講演会も相次ぎ、エリック・セラリーニさんからは、ラウンドアップやグリホサートの製剤としての毒性の恐ろしさを学び、ゼン・ハニーカットさんからは、決して諦めない強い気持ちを持ち、自ら動くこと、母親であるゼンさんが動くことでアメリカの食が変わってきていることを教わりました。「種子」上映会の開催、山田正彦さんや吉田太郎さんにも来ていただき、種子条例制定や種苗法改正問題などについて学びました。今後の活動へいろいろな形で活かしていきたいと思います。

● 第 5 回コープ自然派生産者&消費者討論会「国産オーガニックを拓げる」

コープ自然派生産者消費者討論会は、今回で 5 年目になります。生産者、組合員、職員など約 200 名が参加しました。毎年、この討論会で GMO フリーゾーン運動の紹介や農地登録を働きかけてきました。新しい生産者が増えていますので、地道ですが継続して呼びかけていくことの大切さを実感しています。

木村-黒田純子さんによる基調講演「農薬の人体影響-ネオニコチノイド、グリホサートの危険性」では、ここ数年でどんどん明らかになってきている農薬毒性について詳しくうかがいました。日本は農薬使用大国である現状から一刻も早く方向転換しなければいけない、ラウンドアップやネオニコチノイドの使用規制や禁止に向けて、あらゆる立場から国や企業に働きかけましょうと呼びかけられました。



～2020 年度活動報告～

● 七星食品新豚舎見学

「安心して食べられる豚肉が欲しい」という組合員の声からスタートした自然豚。徳島県にアニマルウェルフェア対応の豚舎を新設した七星食品の自然豚の豚舎を見学しました。NONGMO で PHF 飼料はもちろん、肥育期飼料給与期間中は抗生剤等の投薬も行っておりません。肥育スペースはフリーストールで通常より広く、鼻先で穴を掘ったり走ったりなどの行動欲求に対応し、なるべくストレスを与えないように育てられています。アニマルウェルフェアに対応してほしいという組合員の声から実現した豚舎。GM の危険性はもちろん、アニマルウェルフェアを広げていくことも必要だと感じました。

● 国産大豆のグリホサート残留問題

国産大豆のプレハーベスト問題を深刻に受け止め、昨年秋から原料大豆と製品(豆腐、納豆)の残留検査を実施しています。残念ながら、いくつかの検体でグリホサートが確認されました。ホクレン以外の国内各地の JA でも散布の呼びかけが行われている情報があり、このままでは国産大豆のプレハーベスト汚染が広がっていくことが非常に懸念されます。生産者にこの農薬の危険性を伝える場をもちたいと、2 月には天笠啓祐さんによるグリホサート問題講演会を開催しました。

● 第6回生産者消費者討論会「コープ自然派から国産オーガニックを上げよう」

6回目となる今年は、コロナの影響でオンライン開催に。今回は「学校給食をオーガニックに変えるために」というテーマで生産者、組合員、職員など約 300 名が参加。昨年からさらに参加者が増え、給食オーガニックへの関心の高さがうかがえました。

講演会では千葉県いすみ市の農林課 鮫田さんより、学校給食 100%有機米の実現を達成させるべく 2013年に地元有志の農家を含め3人で始めた有機稲作。2017年には学校給食米 100%有機にすることを達成した4年間の取り組みや経緯をうかがいました。世界の事例としてはジャパン・オーガニック・コンソーシアム代表理事の南埜さんよりアメリカ、フランス、イタリア、韓国などの事例からオーガニック給食の広がりを学びました。世界はすでにオーガニック給食が常識になり始めている現状を知り、変えるためには日本でどう広げていくかを考えるきっかけとなりました。

● フリーゾーン農地登録について

2020 年度は生産者が集まる機会や各地域のイベントなど、オンラインで呼びかけを行いました。職員と協力しながら生産者にも声かけをしました。

GMO フリーゾーン 2020 年度農地登録面積(ha)

青森	徳島	島根	長野	熊本	兵庫	岡山
60.00	18.00	14.00	10.00	5.00	2.83	1.50

合計：111.33 ha

GMOフリーゾーン国際活動報告 《ドイツ》

Hi! Greetings from Berlin, Germany to you in Japan!

ドイツのベルリンから日本のみなさんへこんにちは！

My name is Mareike Imken. I work for Save Our Seeds and I co-ordinate the European Stop Gene Drive Campaign.

マレイケ・イムケンです。ドイツのNGO「セーブ・アワ・シーズ」で働き、「ヨーロッパ・ストップ・ジーン・ドライブ・キャンペーン」のコーディネーターをしています。

But it is great to have friends and allies worldwide, as you are in Japan. Please, keep working, keep fighting to keep our seeds, our food and nature free from GMOs!

日本のみなさんや世界中の人たちと繋がれることは素晴らしいことです。種（たね）や食べもの、自然環境を遺伝子組み換えフリーにするために引き続き頑張りましょう。

If we want to stop gene drive organisms from ever being released into nature –we have to stick together. There are two decisive international conferences taking place this year: The IUCN World Congress in France and the CBD COP 15 in China.

遺伝子ドライブを環境に放出させないためには私たちの団結が必要です。今年は二つの重要な国際会議が予定されています。一つは、国際自然保護連合の世界会議がフランスで、もう一つは、生物多様性条約第15回締約国会議が中国で開催される予定です。

The International Union for the Conservation of Nature will hold its World Congress in September 2021 France. There its Members will have chance to vote on Resolution 75 which will decide on how the IUCN will shape a position on synthetic biology and gene drives.

Please help to inform IUCN members from Japan that they need to be aware of this resolution and its importance because currently the process is dominated by developers and proponents of GMOs and gene drives.

国際自然保護連合の世界会議は9月にフランスで開催される予定です。加盟国は合成生物学や遺伝子ドライブに関する「レゾリューション75」に投票する機会があります。国際自然保護連合・日本委員会は、このレゾリューションの重要性を理解する必要があります。これまでのところ遺伝子組み換え生物や遺伝子ドライブ生物の開発者や推進者らによって交渉が支配されているからです。

The second decisive moment will be the 15th Conference of the Parties to the UN Convention on Biological Diversity, which will probably be held in Kunming, China in October this year.

There the world will adopt the Post 2020 Global Biodiversity Framework with the aim to stop global biodiversity loss and species extinction. GMOs as part of unsustainable agriculture and

in the future in the form of Gene Drives are a driver of biodiversity loss. This is why we need to make sure that the Global Biodiversity Framework demands that genetic engineering is regulated strictly to avoid harm for biodiversity. We also need to make sure that the world agrees on a global moratorium on the release of gene drive organisms into nature. First preparatory meetings will already be held virtually in mid-February. Please help to make your government aware of these demands.

もう一つの重要な会議は10月に中国の昆明（くんみん）で開催予定の生物多様性条約第15回締約国会議です。その会議では世界的な生物多様性の損失と種（しゅ）の絶滅に歯止めをかけることを目的として、ポスト2020生物多様性世界枠組みを採択することになっています。持続不可能な農業である遺伝子組み換え生物、そして将来的には遺伝子ドライブが生物多様性損失の原動力となるでしょう。多様性を守るためには、生物多様性世界枠組みによって遺伝子操作が厳しく規制されることが要求されなければなりません。そして遺伝子ドライブ生物が自然界へ放出されないよう世界的なモラトリアムに世界が同意するようにしなければなりません。準備会議は2月中旬にオンラインで開催されました。日本政府がこれらの要求を認識するよう働きかけてください。

If you need any more information on this topic I would be glad to send it to you!
もし更なる情報が必要であれば、お送りします。

Have a good meeting! My best wishes to you! Bye.

実り多い集会となりますように。みなさまにもどうぞよろしく！さようなら。

GMO フリーゾーン全国交流集会 in 滋賀・集会宣言(案)

遺伝子組み換え(GM)作物が本格的に栽培され始めてから約四半世紀が経ちました。多国籍企業が食料支配に向けて開発したこの作物は、世界中の農民、消費者の闘いを前に、行き詰まりを呈してきました。しかも除草剤に枯れない雑草が広がり、殺虫毒素で死なない害虫が増え、農薬の使用量が増え、除草剤グリホサートによる健康被害が拡大してきました。もはやGM作物・食品には未来がないことは明らかになりました。

しかし、GM食品・作物を推進してきた研究者・機関や企業などは、新たにゲノム編集技術など新植物育種技術での開発を推し進め、政府もまた、GM作物の二の舞を避けるため規制をせず、食品表示までさせないように動きました。またGM食品表示制度まで改定して、ほとんどの食品で「遺伝子組み換え」と表示させず、消費者に選択させないように変更しました。

さらには、ゲノム編集で開発した「高GABAトマト」の届出が2020年末に厚生労働省で受理され、届け出たサナテックシード社による苗の無償提供が間もなく行われます。このままでは遺伝子組み換え作物は復活し、ゲノム操作作物・食品開発は進み、世界規模で種子の販売が進み、農家は栽培を強いられ、消費者は知らないうちに食べさせられるという状況になります。

それに対して私たちは、地域から対抗する取り組みを行っていきます。それをもたらすものこそGMOフリーゾーンの拡大です。遺伝子組み換え作物・食品だけでなく、ゲノム編集食品を拒否し、作らせない、流通させない、食べないという取り組みを日本中に広げていくことで、日本の食と農と、私たちの食卓を守っていくことが極めて大事な状況になってきました。

本日、琵琶湖とともに豊かな自然と共生する食と農を追求してきた滋賀の地に集まった私たちは、世界の人々とともに、GM作物・ゲノム編集作物の栽培拒否を貫き、GMOフリーゾーンを拡大していきます。GMOフリーゾーンの輪を広げること、地域の農と食文化を守り、食の安全と生態系を守ります。

2021年3月19日
集会参加者一同

協賛協力団体様一覧

第15回 GMO フリーゾーン全国交流集会 in 滋賀を開催するにあたり、感染拡大防止の対策に万全を期すため規模を縮小し、オンライン参加を中心に開催することになりました。例年とは違った形での全国交流集会を実現するにあたり、ご協賛いただきました団体の皆様には心より感謝申し上げます。

生活クラブ事業連合生活協同組合連合会

一般社団法人グリーンコープ共同体

NPO 法人秀明自然農法ネットワーク

NPO 法人使い捨て時代を考える会

生活協同組合連合会 コープ自然派事業連合

生活協同組合コープ自然派しこく

生活協同組合コープ自然派おおさか

生活協同組合コープ自然派兵庫

生活協同組合コープ自然派奈良

生活協同組合コープ自然派京都

第15回 GMO フリーゾーン全国交流集会 in 滋賀 賛同団体からのメッセージ

都道府県	市町村	団体名	一言メッセージ(20字程度)
高知県	南国市	NPO 土といのち	未来の子供のためにもっと広げよう
北海道	南幌町	環ネットワーク南幌	農薬、遺伝子組み換えはよくない
徳島県	阿南市	森野	これからの日本に安全安心の生活を！！
奈良県	五條市	堀内農園	がんばっていきましょー！！
鳥取県	鳥取市	たにがみ農園	やるぞ-----!!!
徳島県	阿南市	桑野川 EM 研究会	孫子の代まで安全安心
東京	八王子	(株)マゴメ	小学校から発信していきましょう。
京都府	京田辺市	つながる・みなまとわたし	食べることは生きること。子どもたちに安全な未来を！
徳島県	阿南市	桑野川 EM 研究会	組み換え反対
兵庫県	たつの市	ゆうやけこやけ米	自家採種による伝統野菜を見直そう！！
兵庫県	神戸市	田坂農園	古来～未来へ 安全安心を継承したい
山形県	鶴岡市	庄内協同ファーム	自然の原理に則った暮らしのために！！
三重県	伊賀市	(株)へんこ	生命を大切に育てていきましょう。

実行委員会一覧

- ◆ **NPO 法人秀明自然農法ネットワーク**
〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代 316
<https://www.snn.or.jp>
- ◆ **針江のんきいふあーむ**
520-1502 滋賀県高島市新旭町針江 417-1
<http://nonkifarm.com>
- ◆ **中道農園**
〒520-2422 滋賀県野洲市比留田 2458
<https://tukaisutejidai.com>
- ◆ **NPO 法人使い捨て時代を考える会**
〒600-8061 京都府京都市下京区筋屋町 141
<https://tukaisutejidai.com>
- ◆ **丸中醤油株式会社**
〒529-1232 滋賀県愛知郡相荘町東出 229
<http://www.s-marunaka.com>
- ◆ **ブルーベリーフィールズ紀伊國屋**
〒520-0362 滋賀県大津市伊香立上龍華町 673
<http://www.bbkinokuniya.com>
- ◆ **生活協同組合コープ自然派事業連合**
〒651-2228 兵庫県神戸市西区見津が丘 3-8-5
<https://www.shizenha.net>
- ◆ **生活協同組合コープ自然派京都**
〒613-0022 京都府久世郡久御山町市田新珠城 9 番
<https://www.shizenha.net/kyoto>



第 15 回 GMO フリーゾーン全国交流集会 in 滋賀